

青少年教育指導者等の養成・研修事業

自然体験活動指導者（NEAL リーダー）養成事業

1 ねらい

・全国体験活動指導者認定委員会が制定した「自然体験活動指導者養成カリキュラム」に則り、自然体験指導者（NEAL）リーダーを養成することにより、青少年向け自然体験活動プログラムにおいて、子供の発達段階に応じて適切かつ安全に指導ができる自然体験活動指導者を育成する。

2 期日

令和7年2月22日（土）～24日（月）【2泊3日】

令和7年2月22日（土）～23日（日）【1泊2日】※法人ボランティア養成事業履修者のみ

3 対象

年度末年齢16歳以上の自然体験活動に興味・関心のある方

4 募集人数 / 応募人数 / 参加人数

20名程度 / 10名 / 10名

5 講師・スタッフ

【講師】

元小学校長 深山 慶太 氏

富山国際大学 子ども育成学部 教授 松山 友之 氏

国立能登青少年交流の家 主幹 小泉 滋 氏(主任講師)

国立立山青少年自然の家 次長 高地 修 ・ 他職員 3名

【スタッフ】

国立立山青少年自然の家 職員 2名

6 後援

富山県教育委員会、北日本新聞社

7 日程

	午前	午後	夜
2月22日 (土)		○開講式 ○ガイダンス ○対象者理解 ・講義 ○自然体験活動の指導 ・講義	○自然体験活動の特質 ・講義
2月23日 (日)	○自然体験活動の特質 ・森散策 ○自然体験活動の技術 ・マイフォークづくり	○青少年教育における体験活動 ・講義 ○自然体験活動の安全管理 ・講義	○自然体験活動の技術 ・野外炊事
2月24日 (月・振)	○自然体験活動の技術 ・チューブそり体験 ・雪像づくり	○認定試験 ○閉講式	

※1泊2日参加者は、2月23日の午後に認定試験を受験後、退所

8 参加者からの事後アンケート

- ・指導者は、知識やスキルだけではなく、様々な経験をして参加者とのかかわり方などを考えることが大切だと思った。
- ・探検しながらも、色々な知識や技術なども知ることができ、季節性も実感できた。
- ・各講義が盛り上がっていたので、楽しいプログラムを安全に作れるようになりたいと思った。
- ・危険な植物や虫の話を聞いて良かった。具体的な特徴を知ることができ、指導に生かしていきたい。

9 成果

- ・各講義に、フィールドワークやグループワークなどの体験的要素を多く盛り込んだことで、参加者の学びの質を高められたことがアンケートから伺えた。
- ・事業の企画・運営や講習全体の監督、ガイダンスの担当など、総合的役割を担う主任講師を国立能登青少年交流の家の小泉氏に依頼をした。加えて、他外部講師の依頼もあったため、早期段階から計画的に準備を進めた。それにより、事業全体の質を高めることができた。
- ・法人ボランティアが1泊2日で参加できるよう、「法人ボランティア養成事業」と「NEALリーダー養成事業」の重複カリキュラムを鑑み、日程調整を行ったことで、学生の日程的・金銭的負担を減らすことができた。

10 今後の課題

- ・事業実施時期に寒波による降雪の影響があったことで、一部の参加者が遅れて参加した。雪を活用した立山ならではの企画を提供できる魅力はあるが、交通状況における不安要素が大きいため、実施時期や集合場所などを見直す必要がある。
- ・募集定員より参加者が半分ほどであった。募集開始時期は早かったことから、問題は広報の方法や参加費設定にあることが伺える。広報については、東海北陸ブロックの各担当者と連携して行ったり、自然体験活動部会に広報の依頼申請をしたりするなどの改善が必要である。参加費設定については、参加者の年齢層が若い世代が多いことを踏まえ、施設使用料を事業予算から捻出するなどの工夫が必要である。

